

一般化された情報を誰もが共有することは、国民国家における民主主義の基本的な条件だが、それは余所行きでタテマエ的な言葉のやり取りにすぎず、身近な生活のリアリティや感情を込めて心を通わせる真の「コミュニケーション」とは言えない。そのような誰が伝えても聞いても理解できるような一般化された情報や記号を交換する「コミュニケーション」は、周囲の人びとと付き合い合い、語りあう固有の人間としての「コミュニケーション」を却って阻害する場合もあると筆者は言っている。このような筆者の見解に照らすと「コミュニケーション」を取る方が良いと勝手に思い込んでいる価値観が実は間違いで「コミュニケーション」が却って真実の探求を阻害する場合があることに気づく。

私たちが報道を通して知る「地球温暖化」という概念は、現在の国際的な学術会議による調査報告書から出されているものであり、その原因は温室効果ガスといった人為的なものだというのが一般常識ではあるが、それは実体験に基づいた事実ではなく、あくまでマスコミュニケーションを通して常識である。ところが「地球温暖化」は人為的なものではないと異論を唱える人も一部にいる。

ーション」に回帰するべきである。
 るのではない、直接交流を大切に
 はメディアを介してのバーチャルな
 する範囲での直接的な付き合いを重
 「コミュニケーション」を取り戻すた
 く。私たちが身近なリアリティのあ
 な体験を基にした私たちの心の交
 「コミュニケーション」の発達は、身
 このようにメディアを通して知る
 しかしそれは幻想でしかない。
 々と同じ被害者だという心の交流
 や山火事を「地球温暖化」のせい
 貼ることを急がせることでもわか
 球温暖化のせいだ」というように
 震や火山の噴火が多いだのという
 たとえばそれは、このところやけ
 と交流しているかのような錯覚を覚
 が進んだことにより被害を被ってい
 イアにより知ることには、まるで
 しかし、このように概念的な事象に